

○事業所名	児童デイサービス・アニマートさのStudy			
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		～	令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50名	(回答者数)	40名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様への適切な支援提供	・職員がお子様一人ひとりの特性や得意、苦手なことに対し必要な支援内容を考慮・実践し、必要な力を身に付けさせるような支援ができています。	・お子様を支援した結果を日々報告し合い、次の支援につなげられるため改善を行うサイクルをつくること。
2	保護者への適切な説明	・保護者が少しでも不安を感じた時に相談できる職員や事業所の雰囲気づくりに努めている。	・普段から保護者の方々とのコミュニケーションを深めていく。 ・職員間での情報共有を大切にする。
3	地域連携	・地域にある就労支援事業所や店舗に協力をいただき、職場体験や買い物学習、外食体験を行うことができた。	・ご利用しているお子様に必要なことは何かを考えて、多様な経験を積むことができる環境づくりに努めていく。 ・継続するだけでなく、新規改革をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム	・保護者同士の交流の場の提供や保護者向け企画の回数が少なかった。 ・保護者は、日々子育てに追われ相談できるコミュニティも少ないことがある。週1回のご利用時の相談では解決に近づけないことが多い。	・個別の家族支援、小集団のグループの家族支援等の開催。 ・親子プログラムとして、親子レク等の実施研修開催。 ・新学期になったタイミングで個別家族支援のご案内を行う。また学校とも連携を取りながら、授業参観等に参加し学校での様子や事業所での様子を学校・家庭・事業所で共有していく。
2	事業所外での交流	・地域でのイベントへの参加をし、地域連携を図る。 ・今年度は、初めて同グループでの交流の一環で「防犯教室」を行った。子どもたちにとっていい経験となった。	・長期休業中や祝日のご利用時に、同グループで同じ活動に参加したり、イベントを行うことでコミュニケーションの力をつけていく。 ・個人情報の観点から、事前に保護者への説明を行う必要がある。
3	環境整備	・活動するスペースが子どもたちの遊びの内容では、限られてしまうことも多い。	・レイアウトを工夫することで、子どもたちが楽しく安全に活動することができるようにする。 ・事業所内の物の片付けを行い、必要に応じて使えるスペースを確保して安心できる場所を確保する。